

【小悪魔】

「今回の主役はあそこで眠ってる女の子ね、ふふ、無防備にすやすやとまあ」

【小悪魔】

「って、ガン見してるわね、何何、ああいう感じがタイプなの？」

【小悪魔】

「あの子政争に敗れた某国のお姫様ね。上手く行けばお后、なんて話もあったみたい」

【小悪魔】

「それも納得の高貴さだって？ 凄い美人だしつて？ ふう～ん」

【小悪魔】

「べた褒めねえ、私にもそんな言葉、掛けて貰いたいわ、全くう」

【小悪魔】

「ま、確かに社交界でもかなりの評判だったわ。使用人にも好かれていたし」

【小悪魔】

「それに彼女、芸術にもたけていて絵や彫刻も見事な物だったの。中でも歌は素晴らしいわ。私も感動しちゃった」

【小悪魔】

「けど…その歌声も今は…え、どういう事だって？ ま、すぐに分かるわよ」

【小悪魔】

「ほら、眠れる美女のお目覚めよ」

【お嬢様】

「ち…ん…ん…ん…」

【お嬢様】

「ちんぽ………ちんぽ！？」
(後半、自分の発言に驚いています)

【お嬢様】

「ちん…ちんぽ欲しい！ ちんぽお！？」
(なんで？ と動搖しています)

【小悪魔】

「あはは、あなたあの子と同じ顔してたわ、ぽかーって口開いて、あはは、面白い」

【小悪魔】

「そりや驚くわよね、清楚な深窓の令嬢がイキナリお下品な単語、連呼してたら」

【小悪魔】

「誰もが憧れるお姫様は本当は淫乱で、ヤリマンなビッチでしたあ～」

【小悪魔】

「ってのは冗談で、実は…悪一い魔法使いが、呪いを掛けたのね。失脚させた彼女が万が一にも復活なんて事が無いようって」

【小悪魔】

「その結果が…」

【お嬢様】
「ちんぽ、ちんぽ欲しい！？ ちんぽお！？」
(うそ、なんで、どうして?)

【小悪魔】
「アレって訳。特定の単語しか口に出来ない呪い。これじゃ絶対他人の前に出られないもんね、うふふ」

【小悪魔】
「それにしても、寄りにも寄って、ちんぽ欲しいなんて…魔法使い、良い趣味してるわ、くふふ」

【お嬢様】
「ちんぽ…うう、ちんぽお～」

【小悪魔】
「お、白馬の王子様が登場ね。ほお結構な色男ね
なんでも、婚約者、だったらしいわよ」

【お嬢様】
「ち！？ ちんぽ！？ ちんぽ欲しい」
(○○様←名家の子息 あ、あなたが何故?)

【お嬢様】
「ち！？ ちん、ちん、ちんぽ欲しい！」
(やあ、なんでこんな下品な言葉しかでてこないの)

【お嬢様】
「ちんぽお、ちん、んう…」

【お嬢様】
「ちんぽ欲しい、ちんぽ欲しい、ちんぽ欲しい」
(○○様、助けに来てくれたんですよね)

【小悪魔】
「助けが来たと思ってるのかしら？ まあ、普通そう思うわよね」

【小悪魔】
「ふふ、あんなに目を輝かせて…可愛らしい事」

【お嬢様】
「ちんぽ、ちんぽ欲しい、ちんぽ」
(と、とにかくココから出して…)

【お嬢様】
「ち、ちんぽおおおおお」
(いたあああい)

【小悪魔】
「おーお、派手に吹っ飛んだわね。女でも容赦ないね
あの男」

【お嬢様】
「ちん、ぽお、ちん…ぽ、欲しい…」
(どう、して○○様、うう、痛い)

【小悪魔】

「まだ分からぬえ。ふう、状況が分かってないのか、それとも」

【小悪魔】

「あなたみたいに素直なのかしら、ふふ」

【小悪魔】

「どう？ 哀れなお嬢様を見て同情しちゃった？ 助けてあげたい？」

【小悪魔】

「それとも…心の内に秘めている残虐な自分が目を覚ましてしまいそう？ うふふ」

【小悪魔】

「違うって？ ふふ、意地張らなくてもいいのに…」

【小悪魔】

「女を縛り付けて、暴力を振るい、欲望のままに犯したい…そんな願い、あるんじゃないの？」

【小悪魔】

「私なら、その願望、叶えさせてあげる事も…」

【小悪魔】

「あん、頑固ねえ、ふふ。っと、あっちの方も新たな展開があったみたいよ」

【お嬢様】

「ちんぽ欲しい、ちんぽ欲しい、欲しい、ちんぽちんぽちんぽ」

(きっと私が取り乱したから○○様を怒らせてしまったのね)

【お嬢様】

「ちんぽ欲しい、ちんぽ欲しい、ちんぽ欲しい」

(謝りますから、だからココから連れ出して下さい)

【小悪魔】

「あらあら必死ね、あんなにすがってる。けど…」

【お嬢様】

「ち、ちんぽおおおおおおお」

(きやああ、いたあああい)

【小悪魔】

「やっぱり。ま、あの男に取っては、彼女は出世の道具にしか過ぎないって事ね」

【お嬢様】

「んう、ち、ちんぽ…」

(うう…ううう)

【小悪魔】

「あらあら、今度は悪そうなお友達が来たわねえ」

【お嬢様】

「ちん…ちんぽ！？ ちんぽ欲しい、ちんぽお」

(あ、あなた達は何？ や、やだ近づかないで)

【小悪魔】

「いいのかしら、そんな事ばっかり言つてると…」

【お嬢様】

「ちんぽ！？ ちん、ちんぽおおお」
(やだ、やめて下さい、助けて、〇〇様あああ)

【お嬢様】

「ちんぽおお、ちんぽ欲しい、ちんぽ欲しい」
(止めてえ、助けて、誰か、誰かあ)

【小悪魔】

「ふう…助けてと言って救いの手が差し伸べられるのは、物語の中だけよねえ」

【小悪魔】

「それにしてもやかましいわね。そろそろ静かにしないと…」

【お嬢様】

「ちんぽ、ちん…んぽ！？ んん！！」
(やめ、ん、んんんう！？)

【小悪魔】

「ほおら、男達も同じ気持ちだったらしいわ、お口、固定されちゃった」

【小悪魔】

「んで、この後は…ちんぽぶち込まれちゃうわよね、くふふ」

【お嬢様】

「んぶううう、んんんん、んんんんんんん！ ちんぽ、んんううう、欲しい、んんん！」
(無理矢理イラマチオされ、喘いでいます)

【小悪魔】

「おーお、フェラどころか男性器を見るのさえ初めてだったでしょに…アレは苦しそうね」

【小悪魔】

「おちんちんも舐める位ならいいけど、突っ込まれると苦しいのよね、特にアレだけ太いと」

【小悪魔】

「あなたの位だったら平気かしら？ え、試してみるかって？ んーそうねえ、どうしようかしら、ふふ」

【お嬢様】

「げほげほげほ、げえほおつ、んひいんひい、んひい」

【お嬢様】

「ち、ちんぽ、げほげほげほ、欲しい、ひいひいひい」
(く、苦しいから、もう、止めて)

【小悪魔】

「わお、まだおちんちん欲しいのね、根性あるわあ」

【お嬢様】

「んび！？ ち、ちんぽ、欲し、んぶううううう」
(いや、もうやめ、んぶううううう)

【お嬢様】

「んびいいい、んんんぶう、ちん、ぽ、んぶううううう」

【小悪魔】

「わあ、見て見て、あの太いおちんちんが根元まで口に入ってる、こりやエグいわあ」

【小悪魔】

「見てるこっちまで吐き気がしそう、うえ～」

【小悪魔】

「けどお自分でちんぽが欲しい、って言ってしまったからねえ」

【小悪魔】

「え、彼女の意志じゃないだろって？ ふふ、そうかも知れないけど、彼らには関係ないのよね、きっと」

【小悪魔】

「都合の良い、性欲解消の相手、位にしか思ってないわよ、きっと」

【お嬢様】

「んぶいい、んぶいいいいい、んぶいいいいいいい」

【お嬢様】

「ちんぽお、ちんぽおおおお、ほじいいいい、んびいいいいい」
(しんじゅう、ぐるじくて、しんじゅう、んびいいい)

【小悪魔】

「お、男の腰の動きが速くなってきた、そろそろ出しちゃうのかしら」

【小悪魔】

「お、行くわよ、行く行く…いっけえ～♪」

【お嬢様】

「んび！？ ちんぽおおおおおおおおおおお」

【お嬢様】

「んげえええほお、ごほごほごほごほ、ちんぽお、ごほごほごほっ」

【お嬢様】

「ひいひいひいひい、ちんぽ、ひいひいひいひい」

【小悪魔】

「吐いちゃった。あーあ、汚ったないわねえ、こうなると深窓の令嬢も台無しね」

【小悪魔】

「さて、これで済めばいいけれど…そもそも行かないわよねえ、だって」

【お嬢様】

「んう、ちんぽ、欲しい、げほげほ、ちんぽお」
(苦しいよお、うう、げほげほ、助けて下さい)

【小悪魔】

「求めちゃってるんだもの、おちんぽを、うふふ」

【お嬢様】

「んひ！？ ち、ちんぽ、ちんぽおおお」
(え、もう、やめて、離して、○○様助けて、ねえ！)

【お嬢様】

「ちんぽ欲しい、ちんぽ、ちんぽちんぽ欲しいいい」
(乱暴しないで、触らないで、ヤダああああ)

【小悪魔】

「おお、美少女が衣服を破られるのって興奮するわね、いいよ、いいよ」

【小悪魔】

「真っ白な柔肌と恥じらいと苦痛に歪める顔が相まって、おちんちん立っちゃいそう」

【小悪魔】

「え、おまえちんぽ付いてるのかって？ ふふ、例えよ、例え」

【小悪魔】

「あなただって、もうバッキバキでしょ？ 隠しても分かるわよ、匂い、するもの」

【小悪魔】

「白く濁った、ドロドロの…精液の香りがね、くふふ」

【小悪魔】

「ほら、男達の準備も出来ちゃってるみたいよ。これからどうなるか…お楽しみね」

【お嬢様】

「ち、ちんぽ、ちんぽ欲しい、ちんぽ」

(近づかないで、何をする気なの、やだ)

【お嬢様】

「ちん！？ んあああ、ちんぽお、んんううう、欲しい、、んんううう」

【小悪魔】

「必死に抵抗してるわね、まあ、無理矢理犯されそうになってるんだし、当たり前よね」

【お嬢様】

「うううう、ちんぽ、くうううう、欲しい、ううううう」

【小悪魔】

「口に突っ込まれた次は、大事なあそこに…それはイヤよねえ、けど…」

【お嬢様】

「ちんぽ、くううううう、ちんぽ、欲しい、うう…んあ！？」

【小悪魔】

「あの細腕じや、無理よねえ、あーあ」

【お嬢様】

「んああ！ ちん、ちんぽおお、ちんぽおお」

(痛い、離して、離して、ねえ、お願いします)

【お嬢様】

「ちん？ ち、ちんぽ、ちんぽ…」

(何…う、嘘、嘘ですよね、ねえ？)

【小悪魔】

「残念、嘘じゃないんですよねえ。うあ、さっき出したばかりなのに、あんなに立ってる」

【お嬢様】

「ち、ちん、ちんぽ、ちんぽ欲しい、ちん…」

(やめ、無理です、私のあそこには入りません)

【小悪魔】

「イヤイヤって首振っても、勘弁して貰えないわよね。さて、ココからはちょっと可愛そうな事になりそうよ」

【お嬢様】

「ち、ちん………ち、んびいいいいいい！」
(や、やめ…んぎいいいいいいいい！)

【お嬢様】

「ちんぽおおおおおお、ちん、ちんぽおおおおお、んぎいいいいいい」
(痛い痛い痛いいいい、んぎいいいいいいいいい)

【お嬢様】

「んびいいいいい、んびいいいいい、ちんぽおおお、んびいいいいい」
(痛いい、あそこが壊れちゃううう、痛いよおお)

【小悪魔】

「うつわ、凄い声、鼓膜破れそう、お嬢様でもあんな声出すのねえ」

【小悪魔】

「涙と涎で顔がぐちゃぐちゃね、まあ、初めてでこれだけ乱暴にされれば、ねえ」

【小悪魔】

「うわ、おまたの所、真っ赤っか、正真正銘の処女だったのねえ」

【小悪魔】

「愛しの君に捧げようと大切に守ってきたのね、ああ、その乙女心分かるわあ」

【小悪魔】

「え、お前に分かるのかって？ 勿論、私も、乙女、ですから」

【お嬢様】

「ちんぽおおお、んびいい、ちんぽおおお、ちんぽお欲しいいい、ちんぽ欲しいいい」
(凄く痛いの、もう止めて、抜いて、お願い、痛いい)

【小悪魔】

「わあ、あんなにされてまでちんぽ欲しいんだ、これは天然のド淫乱ね」

【小悪魔】

「え、お前も根性悪いなって？ そりや名前に、悪、が入ってるもの、当たり前でしょお～？」

【小悪魔】

「あなた、今頃善人ぶったって…そのおちんちん、どう説明するの？」

【小悪魔】

「あの子の惨状、はあはあしながら見つめてたじゃない」

【小悪魔】

「ほら、このオチンチン、ズボンを突き上げてる…しこしこ、されたいんでしょ？」

【小悪魔】

「遠慮しないでいいのよ、してあげる、ほら、しこしこ」

【お嬢様】

「んぶいいいい、ちんぽおお、ちんぽおお」

【小悪魔】

「うああ、半狂乱になって叫んでる、そんなに気持ちいいのかしら」

【お嬢様】

「ぎいいい、ちんぽほしい、ちんぽちんぽおおお」

【小悪魔】

「お嬢様ったら白目剥いてる。けど、ちんぽを欲しがるのは止めないんだ」

【小悪魔】

「そんなお嬢様に…追加のちんぽ、入ります♪」

【お嬢様】

「んび！？ ち、ちんぽ、ちんぽ欲しい」
(○○様！？ やっぱり救って下さるの！？)

【小悪魔】

「ある意味、助けに来てくれたのかもね、意識、飛んじゃうかもだし…痛みでね」

【お嬢様】

「ちんぽ、ちんぽ欲しいちんぽ、ちんぽ」
(ああ、信じていましたわ、ありがとうございます)

【お嬢様】

「ち、ちんぽちんぽ、ちんぽ欲しい？」
(え？ ○○様、な、何を…え、う、嘘、そっちにだなんて、やめ…)

【お嬢様】

「ちんぽおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお」
(anusに入れられ、絶叫します)

【お嬢様】

「ちんぽおおおお、ちんぽお、ちんぽちんぽちんぽおおおおお」
(anusに入れられ、叫んでいます)

【小悪魔】

「わお、一気に入れちゃった。あんな太いの、お尻の穴に入れたら痛いわよねえ」

【小悪魔】

「うつわ、アレ絶対裂けてるわよ、可愛そうに」

【小悪魔】

「あの白馬の王子様、生き生きとしてる、anus好きなのねえ」

【小悪魔】

「あなたはお尻の穴好き？ ふふ、まあ、聞くまでも無いから、オチンチン、もっとカッチカチだもん」

【小悪魔】

「さあ、あの惨劇をおかずには、イッちゃいなさいな」

【小悪魔】

「ほら、我慢しないで…罪悪感なんて捨てて
自分に素直になって」

【小悪魔】

「ほら、あちらもクライマックスみたいよ？
一緒に、びゅっぴゅってしちゃいなさい」

【お嬢様】

「んびいいいい、んびいいいい、ちんぽおおおお、ちんぽおおおおほしいいいい」
(半狂乱になっています。 痛みもありますが、快感も覚えています)

【お嬢様】

「ちんぽおおお、ちんぽおお、ちんぽほじいいいい」
(半狂乱になっています。 痛みもありますが、快感も覚えています)

【小悪魔】

「でる？ でちゃいそう？ 出して、ほら、たあっぷり」

【小悪魔】

「さあ……びゅ、びゅうううううう」

【お嬢様】

「ちんぽおおおおおおおおおおおおおおお」
(絶頂しました)

【お嬢様】

「んびいいいいいいいいいいいいいい」

【小悪魔】

「あっは、出てる出てるう、うふふ」

【小悪魔】

「ちんぽ欲しいって叫びながら、両穴を犯されてるお嬢様を見て、小悪魔の手で射精しちゃったのね」

【小悪魔】

「あなたも、悪い人ねえ、ふふ、私と同じ」

【小悪魔】

「あー、可愛そうなお嬢様。ん？ ちょっと笑ってるわ、あの子」

【小悪魔】

「もしかして…大好きな人にして貰ったから？」

【小悪魔】

「ふう…幸せの形は人それぞれって言うけれど…
業が深いわねえ、ふう」